

2003（平成15）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

一 日本人は、生者であること自体により、死者の霊をつねに無意識に気にし、格別な後ろめたさや負い目を抱いてきたということ。

* 「言いかえれば」につられて、「浄化する行為」＝「慰霊」について触れないこと。

二 日本人の筆者は、死者の霊が安らぐように祀る慰霊行動を、日本文化の民俗的信仰伝統というコンテキストで解釈できるから。

* 筆者が「理解できる」のは、端的には「日本人である（から）」であるが、それがなぜかを、さらに説明すること。少なくとも、「慰霊行動は日本の民俗的な信仰伝統である＝日本人の（「霊」への）信仰の特徴が示されている」ことか、「筆者は日本文化のコンテキストに位置づけて解釈できる」ことかは、解答内容に必須である。

三 慰霊団の元日本兵たちは、戦争で生き残って以来、戦死した戦友の霊への後ろめたさ、負い目への囚われが消えないということ。

* 「時間の、ある部分が止まってしまった」の置換は、「生き残って以後～変わらない」の意であり、「霊の眼を安らかにすることを意識し続ける人生」は、不可。「慰霊」は、傍線の結果として行う行為であり、「そして、その後の人生」に関するものである。

四 戦死者を国家が祀る行事は、近代以前の民衆の習俗にはなく、近代の軍国主義国家が民俗的信仰を変形した創造物であるから。

* 傍線部近辺の「創造物（＝虚構）」の説明のみではなく、「近代以前にそのような習俗は民衆の間にはない」という例証（山折哲雄の言）も挙げておくこと。

五 戦後の遺骨収集には新生国家の政治家や戦没者遺族の思惑もあった。しかし、同質の慰霊行為は民間の事故や自然災害でも見られるので、その思いは、死者への後ろめたさに由来する民衆の宗教心が遺骨収集を自らの信仰に組み込んだものであるとも考えられるから。（一二〇字）

- * 「国家だけではなく、～民衆のなかにもあった」（「Aだけでなく、Bにもあった」）ことの論拠説明であるから、解答は「Cに加えて、Dも～から」という構文となる。
- * 「なぜそのように言えるのか、述べよ」という問いであるから、トートロジカルな解説や単なる主観的推量の類は不可である。すなわち、「民衆が国家の作り出した儀礼行為を自分たちの信仰に組み込んだ（と考えられる）から」とか「慰霊行為を行いたい民衆の思いに適合する（と考えられる）から」などでは解答になっていないのである。解答根拠は常に本文の客観的な読解と論理的な推論に基づくものでなければならない。
- * この設問では、「そのように言える」根拠となる実証例を指摘する必要がある（本文最終センテンスを出題者が問題本文に含めた理由を考えよう）が、それに気づいて解答を作成するのはかなり難しいであろう。

六 a 未練 b 停泊（碇泊） c 託宣 d 墜落 e 被災